

博 多 145

-博多遺跡群第192次調査報告-

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1198集

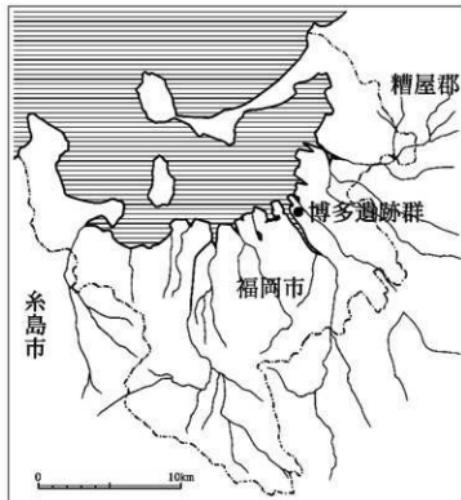
2013

福岡市教育委員会

博 多 145

-博多遺跡群第192次調査報告-

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1198集



調査番号 1119
遺跡略号 HKT-192

2013

福岡市教育委員会

序

福岡市には、豊かな自然と、文化遺産がのこされています。地理的位置から、古くから対外交渉の拠点の一つとして大きな役割を担ってきました。

これら先人の遺産を保護し未来へと伝えていくことは、私たちの重要な務めです。

福岡市教育委員会では、開発によってやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録の保存、出土遺物などの活用に努めています。

本書は、浸水対策事業に伴い、平成 23 年 8 月から 10 月にかけて発掘調査を実施した博多区博多遺跡群第 192 次調査の成果を報告するものです。遺跡のある博多は古代から中世にかけて対外交渉の窓口として大きな役割を果たしました。今回の報告は対外交渉の中心的役割を担った禅宗寺院承天寺境内を横断する長大なトレンチ調査で、その調査成果は承天寺の歴史を解明する上で一助になるものと考えます。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用されますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

発掘調査から本書の刊行に至るまで、福岡市道路下水道局博多駅地区浸水対策室、承天寺を始めとする関係者の方々とのご理解とご協力を賜りましたことに対し、こころから感謝の意を表する次第です。

平成 25 年 3 月 22 日

福岡市教育委員会
教育長 酒井龍彦

例　　言

1 本書は福岡市教育委員会が浸水対策事業に伴い、福岡市博多区博多駅前一丁目 8 地内で発掘調査を実施した博多遺跡群第 192 次調査の報告である。

1 本書で報告する調査の細目は下表のとおりである。

調査番号	遺跡略号	調査対象面積	調査面積	調査期間
1119	HKT-192	280m ²	221m ²	2011年8月5日～10月27日

- 1 本書に掲載した遺構の写真撮影・実測は佐藤一郎（埋蔵文化財第 2 課主任文化財主事）が行った。
- 1 遺物の写真撮影・図面は佐藤、実測は佐藤、技能員の立石真二が行った。
- 1 遺物の整理は整理作業員の古賀美江・小畠貴子・鶴田靖子が行った。
- 1 本書に用いた方位は座標北である。
- 1 遺構は 2 衍の通し番号を用い、遺構の種類に応じて SD（溝）、SE（井戸）、SK（土坑）の略号を番号の前につけた。
- 1 本書に関わる図面、写真、遺物など一切の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵、保管される予定である。
- 1 本書の執筆、編集は佐藤が行った。

本文目次

Iはじめに	5
1 調査に至る経緯	5
2 調査の組織	7
II 遺跡の位置と周辺の歴史環境	7
1 遺跡の位置	7
2 周辺の歴史環境	7
III 調査の記録	9
1 調査の概要	9
2 遺構と遺物	9
(1) 遺構	15
(2) 遺物	15
IV 小結	21

挿図目次

第1図 博多遺跡群の位置と周辺の遺跡(縮尺1/50000)	6
第2図 博多遺跡群発掘区域図(縮尺1/5000)	8
第3図 博多遺跡群第192次調査発掘地(縮尺1/500)	10
第4図 博多遺跡群第192次調査遺構配置図(1)(縮尺1/100)	12
第5図 博多遺跡群第192次調査遺構配置図(2)(縮尺1/100)	13
第6図 個別遺構実測図(縮尺1/40)	14
第7図 出土遺物実測図(1)(縮尺 1/3)	15
第8図 出土遺物実測図(2)(縮尺 1/3)	17
第9図 出土遺物実測図(3)(縮尺 1/3)	18

図版目次

図版 1	1 1区(南東から) 3 3a区(南東から)	2 2区(南東から) 4 4区(南東から)
図版 2	1 3a区(南東から) 3 6区(南東から)	2 5区(南東から)
図版 3	1 7区(南東から) 3 9区(南東から)	2 8区(南東から) 4 10区(南東から)
図版 4	1 10区遠景(北から) 3 11b区(南から)	2 11a区(南東から)
図版 5	1 12a区遠景(南東から) 3 SD30(北東から)	2 12b区(東から)
図版 6	1 11区土層(南西から) 3 SK21(南西から)	2 SE26(東から) 4 SK22(南西から)
図版 7	1 SK23(北西から) 3 SK32(北東から)	2 SE27(南から) 4 SK34(東から)
図版 8	1 SK36(北東から) 3 立坑a(南東から) 5 立坑b(北西から)	2 立坑a柱穴(南から) 4 立坑a(北西から) 6 下水道築造工事(南から))
図版9	出土遺物	

表目次

第1表 博多駅前1丁目発掘調査一覧表	6
第2表 出土土器計測表	20

I はじめに

1 調査に至る経緯

平成 11 年（1999）6 月及び平成 15 年（2003）7 月の記録的豪雨は、博多駅周辺地区に甚大な被害をもたらした。平成 11 年の豪雨では福岡市では毎時 79.5mm の降雨が観測された。博多区の東端を流れる御笠川の上流域の降雨も加わり、下流に位置する博多区では御笠川が決壊し、博多駅周辺のビルに浸水被害を与えた。また、平成 15 年には御笠川上流域の太宰府市を毎時 104mm の豪雨が襲い、再び決壊した御笠川からの溢水により、浸水被害に加え、地下鉄不通など交通機関に大きな亂れが生じた。これらの被災を踏まえて、浸水対策事業についての至急の対策が講じられ、雨水整備水準を毎時雨量 59.1mm から 79.5mm に引き上げ、雨水幹線の築造・ポンプ場の整備・公園内に設けられた貯留浸透施設の整備など推進されることとなった。

福岡市博多区博多駅前 1 丁目地内においても、浸水対策事業の一環として下水道築造工事が計画され、平成 23 年（2011）6 月 3 日付けて福岡市道路下水道局建設部博多駅地区浸水対策室から福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第 1 課に、当該地の下水道工事に伴う埋蔵文化財事前調査依頼（23-1-37）が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である博多遺跡群内に位置し、確認調査が必要である旨を回答した。試掘調査は下水管敷設工事に先行して電気・水道管など埋設管確認のための施工側による確認調査に立ち会うかたちで、7 月 1・4・6 日に行われた。現地表面から約 0.5 ～ 1.6m で褐色砂質土、その下の黄白色砂丘砂上面で遺構が確認された。設計の掘削深度では遺跡の破壊が免れないため、やむを得ず工事に先立ち記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。協議を重ねた結果、8 月 5 日から 10 月 27 日までの期間で調査を行った。

2 調査の組織

発掘調査委託

福岡市道路下水道局建設部博多駅地区浸水対策

発掘調査（平成 23 年度）

福岡市教育委員会文化財部

埋蔵文化財第 1 課

課長 濱石 哲也

事前審査係長 宮井 善朗

事前審査係 今井 隆博（文化財主事）

埋蔵文化財第 2 課

課長 田中 壽夫

調査第 1 係長 米倉 秀紀

発掘調査 佐藤 一郎（主任文化財主事）

資料整理（平成 24 年度）

福岡市経済観光文化局文化財部

埋蔵文化財審査課

課長 米倉 秀紀

事前審査係長 加藤 良彦

事前審査係 今井 隆博（文化財主事）

資料整理 佐藤 一郎（主任文化財主事）

埋蔵文化財調査課

課長 宮井 善朗

調査第 1 係長 常松 幹雄

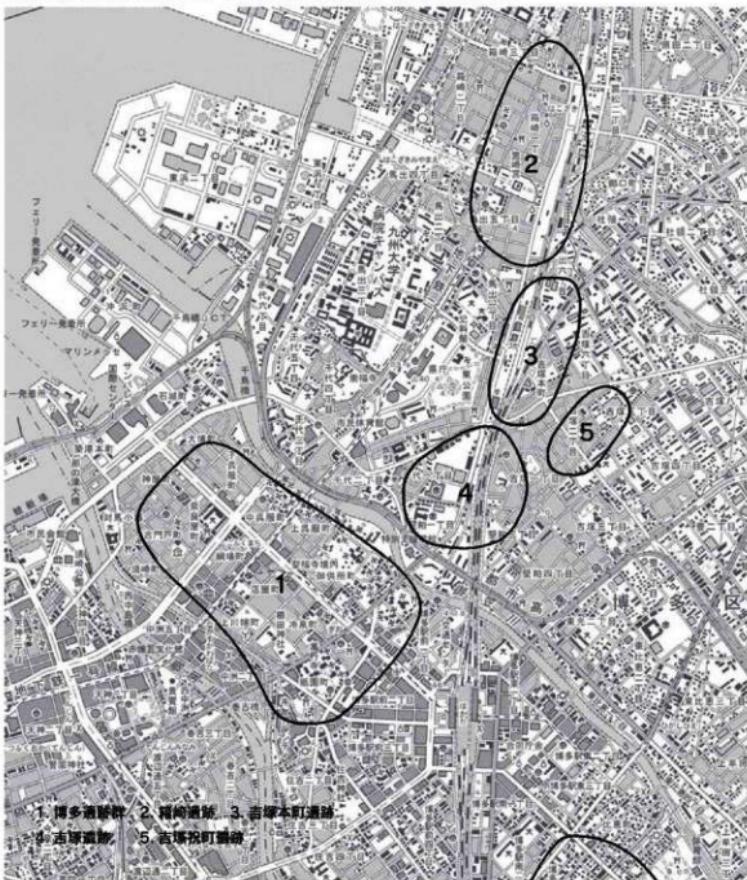
試掘調査は平成 23 年に埋蔵文化財課事前審査係長 宮井、担当の今井が行った。

調査・整理の庶務は文化財部埋蔵文化財第 1 課課管理係（平成 22 年度）の井上幸江・埋蔵文化財審査課管理係（平成 24 年度）の川村啓子が行った。

発掘作業員

安東昌信・兼田ミヤコ・桑原美津子・芹川淳子・尊田絹代・高手與志子・徳山孝恵 整理作業
古賀美江・小畠貴子・鶴田靖子

また、地元博多駅前一丁目町内、施工業者の方々のご協力により、博多遺跡群第 192 次発掘調査、報告書作成にまで至ることができたことに対し心から謝意を表する。



第 1 図 博多遺跡群の位置と周辺の遺跡（縮尺 1/25000）

II 遺跡の位置と周辺の歴史環境

1 遺跡の位置

博多湾岸には砂丘が形成され、湾に注ぐ河川によって分断されている。博多遺跡群は、博多湾岸のほぼ中央に位置し、東を近世に開墾された御笠川、西は那珂川が流れる。

本調査地は博多遺跡群の中では南東部にあたり、承天寺旧境内地に位置する。

2 周辺の歴史環境

承天寺は福岡市博多区博多駅前1丁目に所在する臨済宗東福寺派に属する寺院で、仁治三年(1242)博多居留の宋商人謝国明や筑前守護少弐氏らの援助の下、宋から帰った円爾弁円を開山として建立された。創建から程ない宝治二年(1248)堂宇は火災に遭い、謝国明の援助により再建されたが、中世に遡る建造物は現存していない。

近世の建造物としては、延宝年間(1673～1681)建立の鐘楼、元禄16年(1703)建立の開山堂(建立時期はいずれも寺伝による)、嘉永元年(1848)建立の書院(棟札の記事による)が現存している。

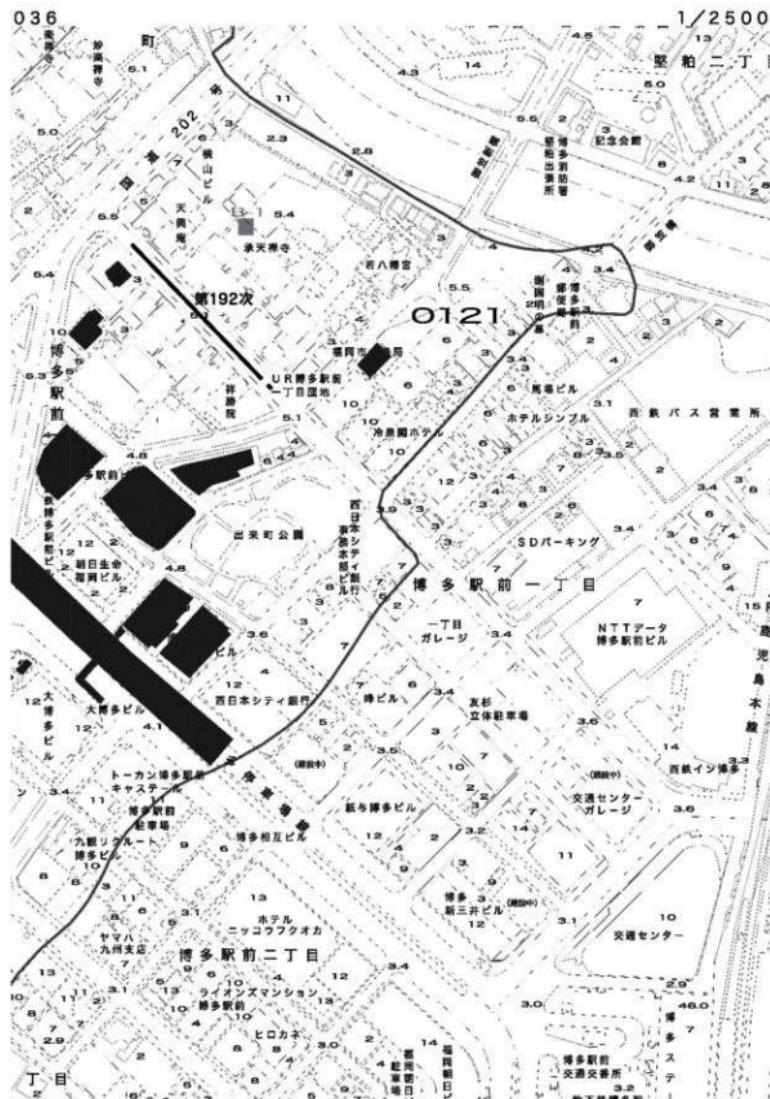
重要文化財に指定されている木造釈迦三尊像〔鎌倉時代〕、銅鐘〔高麗時代、清寧11年(1065)〕絹本着色禅家六祖像〔鎌倉時代〕など寺宝を多数所蔵している。

鎌倉期においては円爾門下の僧が渡宋する際の宿舎として役割を果たすなど、対外交渉の上で重要な役割を果たした。

明治二十二年(1889)の九州鉄道開通や都市計画道路建設により、寺域は大幅に減じている。

遺跡名	次数	調査番号	所在地	調査面積(m ²)	調査期間	報告書	調査原因
博多遺跡群	d	7949	博多駅前1丁目,2丁目	4,500.0	1979.12～1980.8	193	地下鉄
博多遺跡群	13	8128	博多駅前1丁目121他	30.0	1981.7.17～7.18		ビル
博多遺跡群	17	8132	博多駅前1丁目98	910.0	1981.11.6～1982.2.2	118	ビル
博多遺跡群	20	8324	博多駅前1丁目97	980.0	1983.3.19～7.16	118	ビル
博多遺跡群	m	8435	博多駅前1丁目他	215.0	1984.4.2～4.24	193	地下鉄
博多遺跡群	37	8740	博多駅前1丁目129外	1,112.0	1987.12.4～1988.3.31	244	ビル
博多遺跡群	52	8929	博多駅前1丁目155-1	29.0	1989.6.26～7.4		防火水槽
博多遺跡群	64	8976	博多駅前1丁目101	620.0	1990.2.26～7.31	396	ビル
博多遺跡群	109	9822	博多駅前1丁目155-2	301.1	1998.7.1～11.30	629	事務所ビル
博多遺跡群	128	0058	博多駅前1丁目360番	307.0	2001.1.15～3.5	760	庁舎増築
博多遺跡群	167	0647	博多駅前1丁目176-6	288.0	2006.8.5～2007.1.24	994	納骨堂
博多遺跡群	192	1119	博多駅前1丁目8地内	221.0	2011.8.5～10.27	1198	浸水対策事業
博多遺跡群	193	1201	博多駅前1丁目地内	118.0	2012.4.4～6.27		電線地中化工事

第1表 博多駅前1丁目発掘調査一覧表



第2回 発掘区域図

III 調査の記録

1 調査の概要

調査地は博多遺跡群の陸側砂丘博多浜東部、承天寺境内を分断している道路部分に位置する。下水道築造工事に伴う、南東から北西に向かう幅2m、延長113mのトレンチ調査である。

南北50mの第64次調査では14世紀以降の道路遺構が検出されている。東50mの第128次調査では中世末の長大な掘立柱建物や井戸が検出されており、承天寺との関連が指摘されている。(第1表)

試掘調査で確認された現地表下1.3m前後の遺構面(黄白色砂上面)までは、担当者立会いの下施工業者の重機による幅2mのトレンチ掘削(下水管掘り山)を行なった。遺物包含層は部分的に薄く残るが、遺構面は1面とした。現道のセンターラインに沿ってバックホーによって管理設のための溝を掘削する際に遺構が確認される面で止め、軟弱な地盤を1m以上直に掘削しているため同時に土留めのために両壁面には鋼矢板を打ち込み、さらに鋼矢板の間にはサポートを入れ崩壊防止策を取った。個々の遺構は遺構検出面から0.8m以上掘り下げるとき、鋼矢板が動き壁面崩落のおそれがあるため、それ以上の掘り下げは安全対策の上で断念した。現道であるために作業時以外は覆鋼板を被せ、後日に一日で調査可能な分の覆鋼板を剥ぎ、作業員を投入して、延長約50mの工区の調査後、下水管埋設工事、次の工区の鋼矢板打設のため約3週間の間隔を置き次の工区に着手するとした手順で進めた。作業工程は断続的で、以下の通り行われた(区割りは第4・5図参照)。

1区 8月5日 2区 8月8日 3区 8月9日 4区 8月10日 5区 8月11日 6区 9月21日
7区 9月22日 8区 9月23日 9区 9月26日 10区 9月27日 11区 10月24日 12区 10月25日
8月29・30日には管理設部分とは別にマンホール(立坑)部分(7m×3m)の調査を行なった。
9月21日から27日にかけて管理設部分の延長の調査に戻り、再び工事・準備期間を置いて10月24・25日に最終工区の調査を行い、27日に機材の撤収を行なった。実働15日で終了した。

検出した遺構は8~10世紀の柱穴27・溝1条、12世紀後半の柱穴6・溝3条・井戸3基・土坑10基、13世紀後半の柱穴2・溝1条・土坑1基で、遺構からは中心にコンテナ8箱の土器・陶磁器・瓦が出土した。

2 遺構と遺物

検出遺構(第4~6図)先に述べた通り、安全面から遺構確認面から0.8m以上の掘り下げは行っていない。従って井戸や深い土坑は完削できなかった。

溝

SD04 2区で延長2.2m検出した東西溝で、幅0.5m、深さ0.15mを測る。

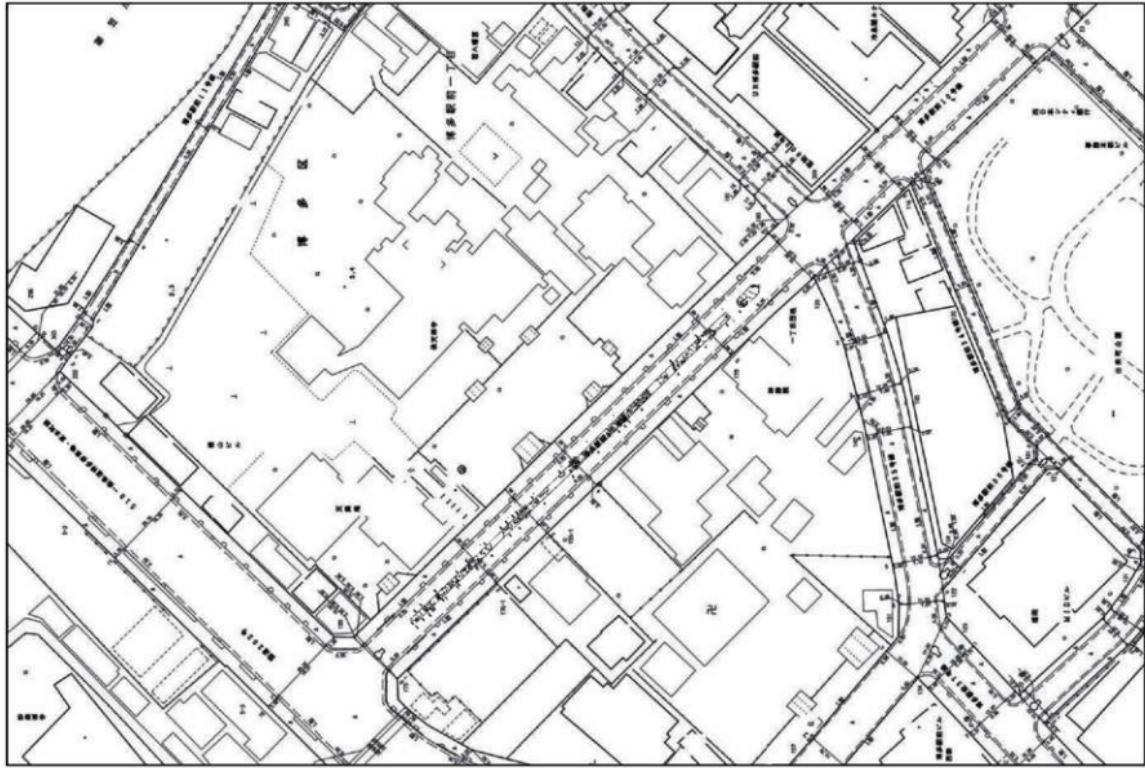
SD08 4区で延長2.0m検出した溝で、方位はN-45°-Eに取り、現在の承天寺一帯の地割の中軸線と同じくする。幅0.4m、深さ0.25mを測る。扁平な径15~20cmの石が0.9mの間隔を取つて溝底面に据えられている。SK09を切る。

SD30 11区で延長1.6m検出した溝で、方位はN-45°-Eに取り、現在の承天寺一帯の地割の中軸線と同じくする。幅0.5m、深さ0.3mを測る。

SD33 11区で延長1.6m検出した溝で、方位はN-66°-Eに取り。幅0.25m、深さ0.05mを測る。

SD40 12区で延長1.4m検出した溝で、方位はN-33°-Eに取り。幅0.7m、深さ0.4mを測る。

第3図 博多港跡群第192次調査発掘地（縮尺1/500）



井戸

S E O 2 1 区で検出した。掘り方の一部を検出したが、大半は調査区外に延びる。掘り方は上面径 2.8m 以上を測る。確認範囲では完掘できたが、深さ 0.5m に止まった。

S E 1 0 5 区で検出した。西半部は調査区外に延び、東端部は攪乱を受けている。掘り方は復元上面径約 2.4m の略円形を呈し、掘り下げは深さ 0.6m に止めた。西壁面近くで井戸枠の痕跡を確認した。復元径 0.6m を測る。

S E 2 6 9 区で検出した。南半部は調査区外に延びる。掘り方は復元上面径約 2m の略円形を呈し、掘り下げは深さ 0.8m に止めた。SK28 を切る。

土坑

S K 2 2 8 区で検出した。東半部は調査区外に延びる。径 1.5m、深さ 0.3m を測る。壁はやや斜めに立ち上がる。

S K 2 3 8 区で検出した。平面形は上面径 1.2m の略円形を呈し、深さは 0.5m を測る。SK24 を切る。

Pit25 立坑部分で検出した。北半部は調査区外に延びる。径 1.2m、深さ 0.7m を測る。壁は斜めに立ち上がる。

S K 2 5 9 区で検出した。径 1.2m の略円形を呈し、深さ 0.45m を測る。壁はやや斜めに立ち上がる。

S K 2 7 9 区で検出した。東半部は調査区外に延びる。径 1.8m、深さ 0.45m を測る。壁はやや斜めに立ち上がる。瓦ガコンテナ 1 箱分出土した。

出土遺物（第 7・8 図）

S D 3 0 出土遺物

土器 杯 (1・2) 底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、1 は底部より内側の大半が欠失、2 の内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。1 は復元口径 12.0cm、器高 2.7cm、復元底径 8.1cm を測る。2 はほぼ完形で、口径 11.2cm、器高 2.7cm、底径 6.6cm を測る。体部がやや内湾して外上方にのび、口縁下で外反し、口禿の白磁と似た形状を取る。

S E 1 0 出土遺物

土器

杯 (3) 底部が欠失し、体部は横ナデ、復元口径 14.2cm を測る。

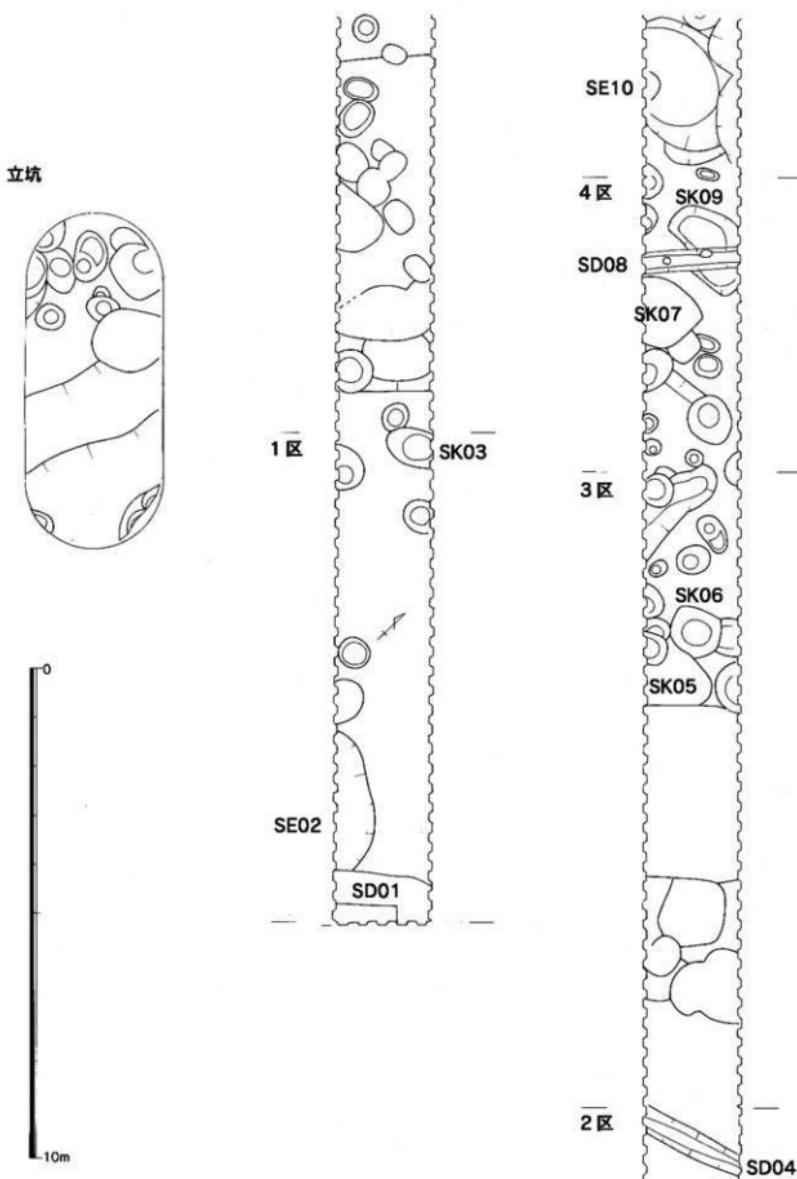
椀 (4) 底部が欠失、体部は内外面とも横方向にヘラ磨き、色調は浅い黄橙色を呈する。

壺 (5) 断面 L 字の口縁部片で、残存する部位はナデ調整である。胎土には粗い砂粒を多量に含み、暗黄褐色を呈する。外面には煤が厚く付着している。

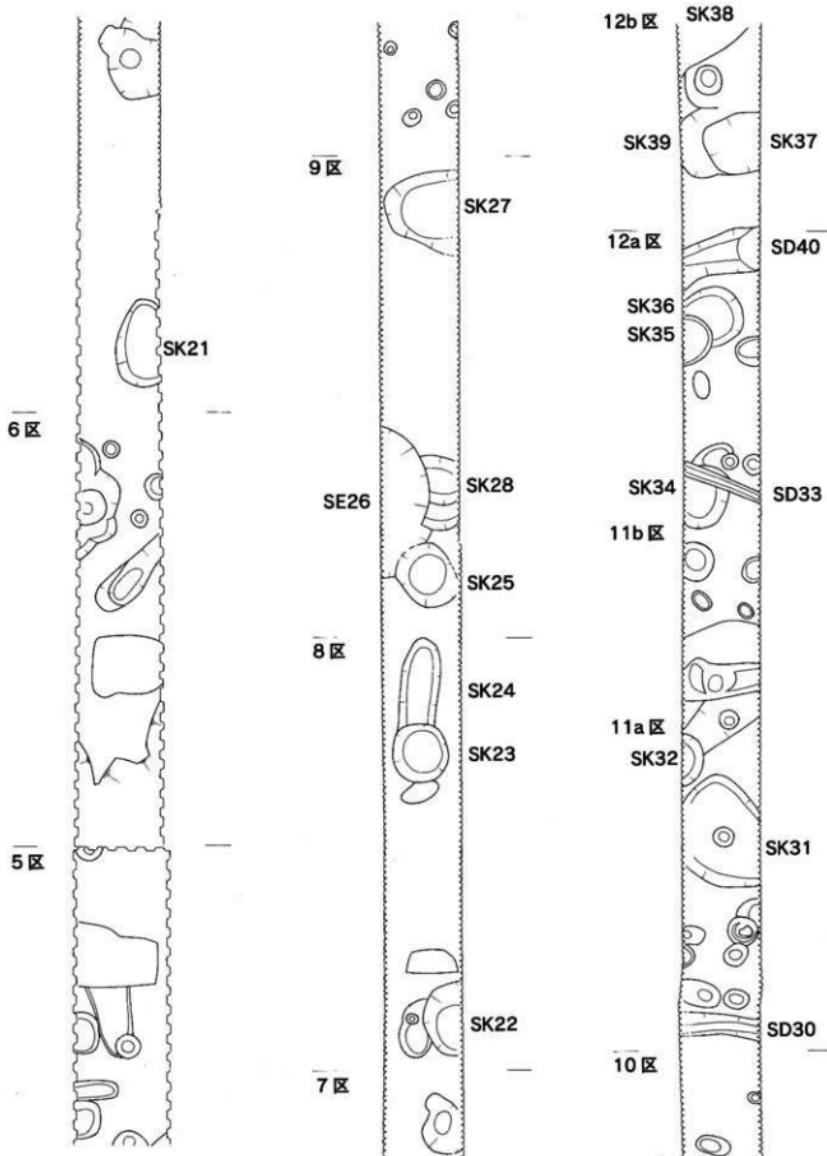
白磁 碗 (6・7) 8 は外反する口縁部片で、内面下に沈線を廻らせる。9 は内底部の釉を輪状に剥ぎ取った碗唇類の底部である。

青磁

碗 (8 ~ 12) 8・9 はヘラ状の工具を用いて片切彫りする龍泉窯系青磁碗で、8 は蓮華折枝文を施す I-2 類口縁部片で、胎土は灰色、釉は半透明で暗緑色を呈する。9 は碗全体を五弁花に見立てた I-4 類底部片で、胎土は灰色、釉は半透明で緑色を呈する。10・11 は同安窯系青磁碗 I-1・b 類口縁部片で、胎土は灰色、釉は半透明で青緑色を呈する。



第4図 博多遺跡群第192次調査遺構配置図(1) (縮尺1/100)



第5図 博多遺跡群第192次調査遺構配置図(2) (縮尺1/100)

皿（13）体部中位で屈曲し、外反する口縁部がつく同安窯系青磁皿である。平坦な内底部には之字形点絞文が施されている。全面施釉の後、外底部の釉をかき取っている。

陶器 こね鉢（14）端部を内に肥厚させ、その下に突帯を廻らせた口縁部片である。無釉の焼き締めで、胎土には砂粒を多量に含み暗灰色を呈し、器表はにぶい橙色を呈する。

陶器 瓢（15）断面が如意状の口縁部片で、胎土には砂粒を含み、黄灰色を呈する。赤褐色の釉が施されている。

S K O 3出土遺物

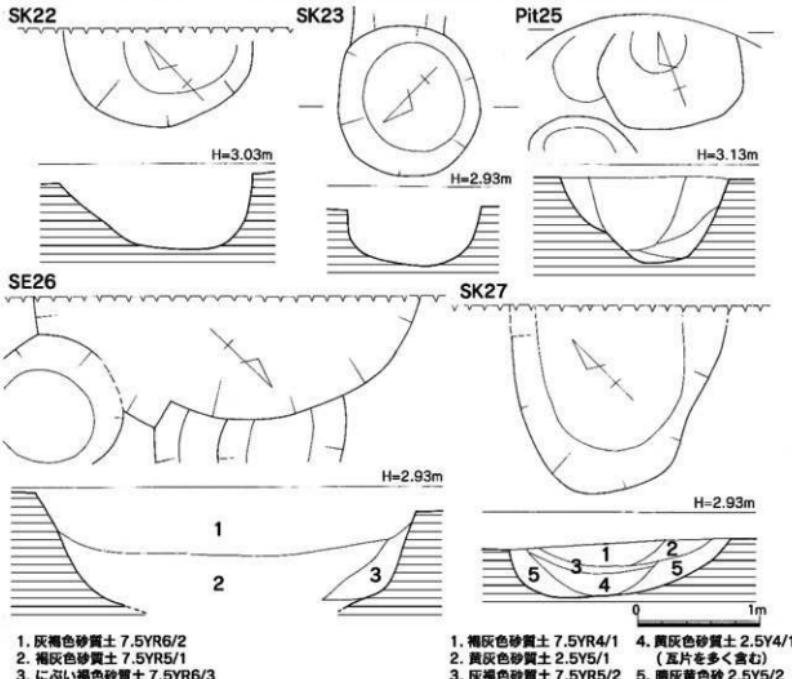
土器師 杯（16）底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。口径 12.4cm、器高 3.2cm、底径 7.6cm を測る。

青磁 碗（17・18）17 是同安窯系青磁、18 是龍泉窯系青磁碗の底部片である。

S K O 5出土遺物

瓦器 輸花楕（19）楠葉型瓦器輸花楕の口縁部小片である。内面は横方向のヘラ磨きの上に縱方向の暗文風のヘラ磨き、外面は不定方向のナデの後、疎らに横方向のヘラ磨きが施され、口縁下から縱方向の画線がヘラ彫りされている。胎土は精良で明青灰色、器表は暗紫灰色を呈する。

青磁 碗（20）同安窯系青磁碗口縁部小片で、胎土は灰色、釉は半透明で淡青緑色を呈する。



第6図 個別遺構実測図（縮尺 1/40）



第7図 出土遺物実測図(1) (縮尺1/3)

SKO7出土遺物

土師器

杯 (21・22) 底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。22は口縁部が欠失し、口径 12.1・13.4cm、器高 2.6・2.7cm、底径 8.8・9.6cm を測る。

壺 (23) 断面 L 字の口縁部片で、胎土には砂粒を多量に含み、にぶい橙色を呈する。

白磁

碗 (24・25・33) いずれも口縁部小片で、24・25 は玉縁口縁の白磁碗 IV 類、33 は端部を短く折り曲げ、内面下に沈線を廻らせる。

皿 (26) やや上げ底状の底部片である。

青磁

碗 (27 ~ 33) 27 ~ 29 は龍泉窯系青磁碗 I-2 類口縁部片、30 は外面に蓮弁を削り出す龍泉窯青磁碗 I-5 類口縁部片、31 ~ 33 は同安窯系青磁碗の 31・32 が口縁部片、33 が底部片である。

皿 (34) 外反する同安窯系青磁皿口縁部小片である。

瓦質土器 すり鉢 (36) 体部下半のみの残存で、内面はハケ目の後、すり目となる条線 (8 本単位) を施す。胎土には砂粒を多量に含み、暗青灰色を呈する。

須恵器 杯 (37・38) 37 は断面四角の低い高台がつく。内側が接地、外側が跳ね上がる。38 は外に開く低い高台がつく。

SK21出土遺物

須恵器 こね鉢 (39) 口縁部はやや「く」字形の玉縁状を呈し、体部は直線的に外上方へのび、下位以下は欠失している。口縁部内面から体部外面にかけて横ナデ、体部内面は不定方向のナデ調整である。瓦質に焼成され、外傾する口縁端部外面が褐灰色、その他の部位は灰白色を呈する。復元口径 24.0cm を測る。

SK23出土遺物

土師器 小皿 (40) 底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。復元口径 9.4cm、器高 1.3cm、復元底径 6.3cm を測る。

青磁

碗 (41) ヘラ状の工具を用いて蓮華折枝文を片切彫りする龍泉窯系青磁碗 I-2 類で、底部は欠失している。胎土は灰色を呈し、釉色は半透明でオリーブ灰色を呈する。

皿 (42) 同安窯系青磁皿で、内底部には之字形点綴文が施されている。体部外面下半以下は施釉されず、露胎となっている。

SK24出土遺物

土師器 底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。

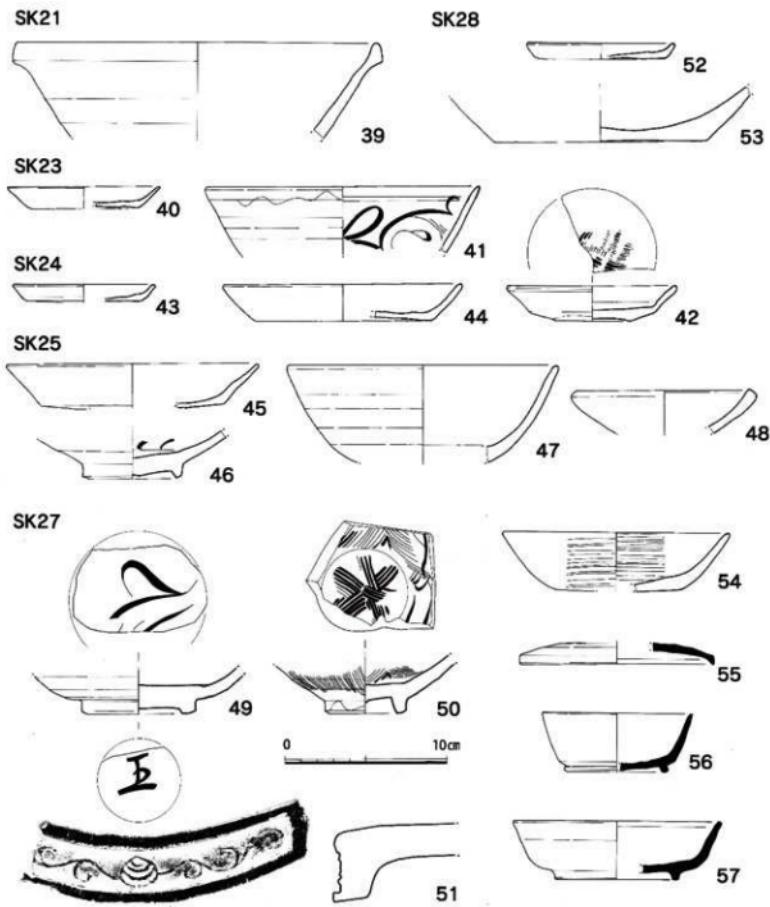
小皿 (43) 復元口径 8.8cm、器高 1.1cm、復元底径 7.0cm を測る。

杯 (44) 復元口径 14.8cm、器高 2.2cm、復元底径 11.0cm を測る。

SK25出土遺物

土師器 杯 (45) 底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。復元口径 15.6cm、器高 2.7cm、復元底径 11.2cm を測る。

白磁 碗 (46) 青白磁碗の器形を呈する白磁碗 VII 類底部片で、胎土は灰白色を呈し、釉は透明で灰黄色を呈する。

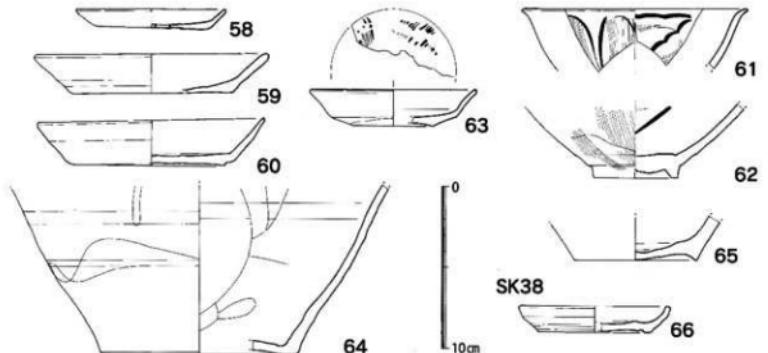


第8図 出土遺物実測図(2)(縮尺1/3)

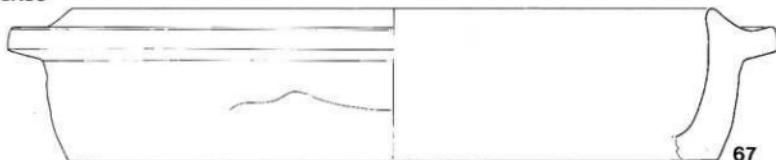
青磁 瓢(47) 軸の発色が悪く文様が不明瞭であるが、五弁花に見立てた1-4類底部片で、胎土は色、釉は色を呈する。

陶器 皿(48) 直線的にのびる体部に、内湾気味の口縁部がつく。口縁端部は肥厚し、底部は欠失している。胎土は明赤褐色を呈し、釉は暗赤褐色を呈する。

SK32



SK39



第9図 出土遺物実測図(3)(縮尺1/3)

SK27出土遺物

青磁碗(49・50) 49は内底部に花文を片彫りする龍泉窯系青磁碗I-2類底部片で、外底部には「王」の墨書が記されている。50は同安窯系青磁III類で、内底部に櫛状の工具により文様が施されている。

軒平瓦(51) 内区には宝珠形の中心飾りの左右に3回反転する唐草を配している。復元瓦当幅22cm、瓦当厚3.7cm、脇区幅0.8cmを測る。胎土には砂粒を多量に含み、色調は緑灰色を呈する。

SK28出土遺物

土師器小皿(52) 底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状压痕がみられる。復元口径9.2cm、器高1.0cm、復元底径9.8cmを測る。

陶器こね鉢(53) 内面に磨痕が残る底部片で、外面は横ナデ調整される。胎土には砂粒を多量に含む。柱穴・ピット状遺構

土師器杯(54) 底部は平坦にヘラ切り離しされ、体部はやや内湾して外上方にのびる。体部外面下位がヘラ削りされる他は、内外面とも横ナデを施した後、横方向にヘラ磨きされる。復元口径14.0cm、器高3.6cm、復元底径7.4cmを測る。Pit25出土。

須恵器

杯蓋(55) 天井部は水平で、外面は回転ヘラ削りされる。口縁部は断面三角形でやや外に開き、内面の体部との境は不明瞭である。内面天井部がナデ、体部・口縁部は回転横ナデである。復元口径12.0cmを測る。Pit64出土。

高台杯(56・57) 56は底部と体部の境が明瞭で稜がつく。体部から口縁部までは直線的にのび、底端部よりやや内側に外に開く低い高台がつく。復元口径 9.2cm、器高 3.6cm、復元高台径 6.4cm を測る。Pit17出土。57は底部と体部の境が不明瞭で丸みをもつ。体部がほぼ直線的にのび、口縁下でわずかに外反する。底端部よりやや内側に断面四角の低い高台がつく。復元口径 12.8cm、器高 3.6cm、高台径 7.6cm を測る。Pit03出土。

S K 3 2出土遺物

土師器 底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。

小皿 (58) 口径 9.3cm、器高 1.2cm、底径 6.6cm を測る。

杯 (59・60) 復元口径 14.0・14.6cm、器高 2.7・2.4cm、底径 (60 は復元) 9.6・10.0cm を測る。

青磁

碗 (61・62) 61 は龍泉窯系青磁碗 I-6・b 類で、ヘラと櫛状の工具を用いて体部外面に蓮弁、内面には蕉葉文を施している。底部が欠失し、残存部位にはすべて釉がかかっている。62 は同安窯系青磁碗 I-1・b 類の底部片である。

皿 (63) 内底部に之字形点綴文が施される同安窯系青磁皿で、体部外面下半以下は露胎である。

陶器 壺 (64・65)

S K 3 8出土遺物

土師器 小皿 (66) 底部は糸切り離しにより、体部は横ナデ、内底はナデ、外底には板状圧痕がみられる。復元口径 9.4cm、器高 1.6cm、復元底径 7.0cm を測る。

S K 3 9出土遺物

陶器 鍋 (67) 器周 1/10 からの復元口径 39.5cm、高さ 9.4cm、復元底径 40.0 を測る。口縁部から 1.4cm 下方に鍔を廻らせ、復元鍔径 47.6cm を測る。胎土には細かい白色砂粒を多量に含み、黄灰色を呈する。焼成は脆弱で、明黄褐色の釉が体部外面の中位までかけられている。

IV 小 結

遺構の密度は博多遺跡群の中では疎らな方であったが、南東基点から 40m の範囲と 50m の空白地帯をはさんで北西終点近く 15m の範囲で古代の柱穴が検出された。その後、12世紀後半まで空隙がある。12世紀後半の遺構はほぼ全域に散在する程度であったが、井戸や土坑から出土する遺物の分量は多く博多の一般的な様相を示す。土坑 SK21 は現況の伽藍中軸線に近い位置にあるが、そこから 30m 北西で検出の SK27・SD30 など承天寺創建後の 13世紀後半以降の遺構は疎らにみられる程度であった。伽藍の中で、廃棄土坑などを掘り込むことが禁忌とれた結果か。

註 1 博多遺跡群調査報告書の内、博多駅前 1 丁目地内、承天寺周辺での報告は以下の通り刊行されている。

「博多Ⅲ」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第 118 集 1985
「博多 16 (第 37 次)」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第 244 集 1991
「博多 47-1 第 64 次調査報告一」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第 396 集 1995
「博多 71-1 博多遺跡群第 109 次調査報告一」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第 629 集 2000
「博多 89」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第 994 集 2008
「博多 124」	福岡市埋蔵文化財調査報告書第 760 集 2003

引用・参考文献

福岡市教育委員会「福岡市の近世社寺建築」1990

竹内理三・「角川日本地名人辞典」編纂委員会編「角川日本地名人辞典 40 福岡県」角川書店 1988

遺構 器種	押抜 番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	遺構 器種	押抜 番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	遺構 器種	押抜 番号	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)
SD30						22	13.4	2.7	9.6	柱穴・ビット				
土師器 杯	1	12.0	2.7	8.1	SK3					土師器 杯	54	14.0	3.6	7.4
	2	11.2	2.7	6.6	SK24					須恵器 杯蓋	56	9.2	3.6	7.6
SE10					土師器 小皿	40	9.4	1.3	6.3	杯	57	12.8	3.6	7.6
土師器 杯	3	14.2			土師器 小皿	43	8.8	1.1	7.0	SK32				
楕	4				杯	44	14.8	2.2	11.0	土師器 小皿	58	9.3	1.2	6.6
SK03					SK25					杯	59	14.0	2.7	9.6
土師器 杯	16	12.4	3.2	7.6	土師器 杯	45	15.6	2.7	11.2		60	14.6	2.4	10.0
SK07					SK28					SK38				
土師器 杯	21	12.1	2.6	8.8	土師器 小皿	52	9.2	1.0	9.8	土師器 小皿	66	9.4	1.6	7.0

第 2 表 出土土器計測表



1.1 区（南東から）



2.2 区（南東から）



3.3a 区（南東から）



4.4 区（南東から）

図版 2



1.3b 区（南東から）



2.5 区（南東から）



3.6 区（南東から）



1.7 区 (南東から)



2.8 区 (北西から)



1.9 区 (南東から)



2.10 区 (南東から)

図版 4



1.10 区遠景（北から）



2.1 1a 区（南東から）



3.1 1b 区（南から）



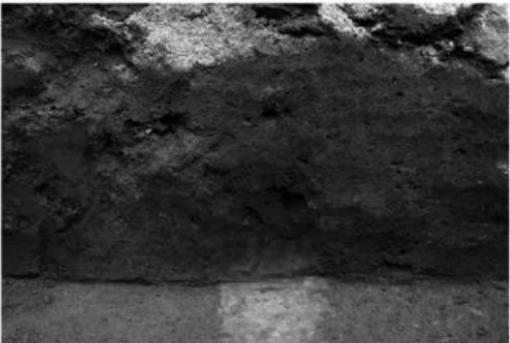
1.1 2 a 区（南東から）



2.1 2 b 区（東から）



3. S D30（北東から）



1.1 1 区土層（南西から）



2.S E26（東から）



3.S K21（南西から）



4.S K22（南西から）

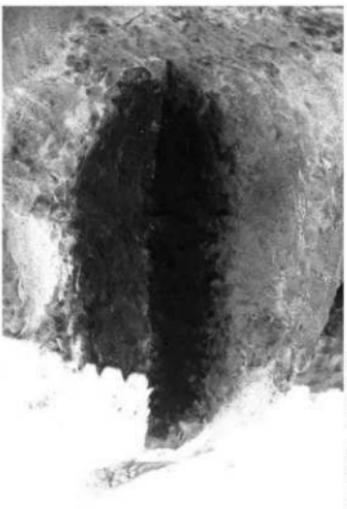
図版 7



2.S K27 (南から)



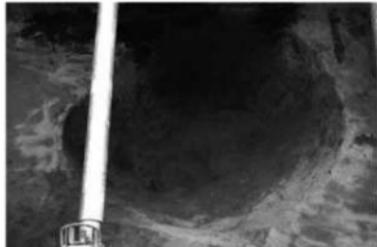
4.S K34 (東から)



1.S K23 (北西から)



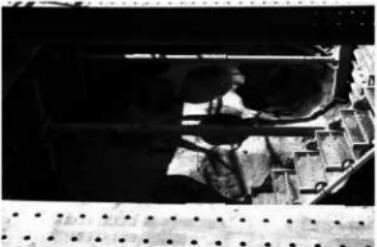
3.S K32 (北東から)



1.S K36 (北東から)



2. 立杭 a 柱穴 (南から)



3.. 立杭 a (南東から)



4. 立杭 a (北西から)

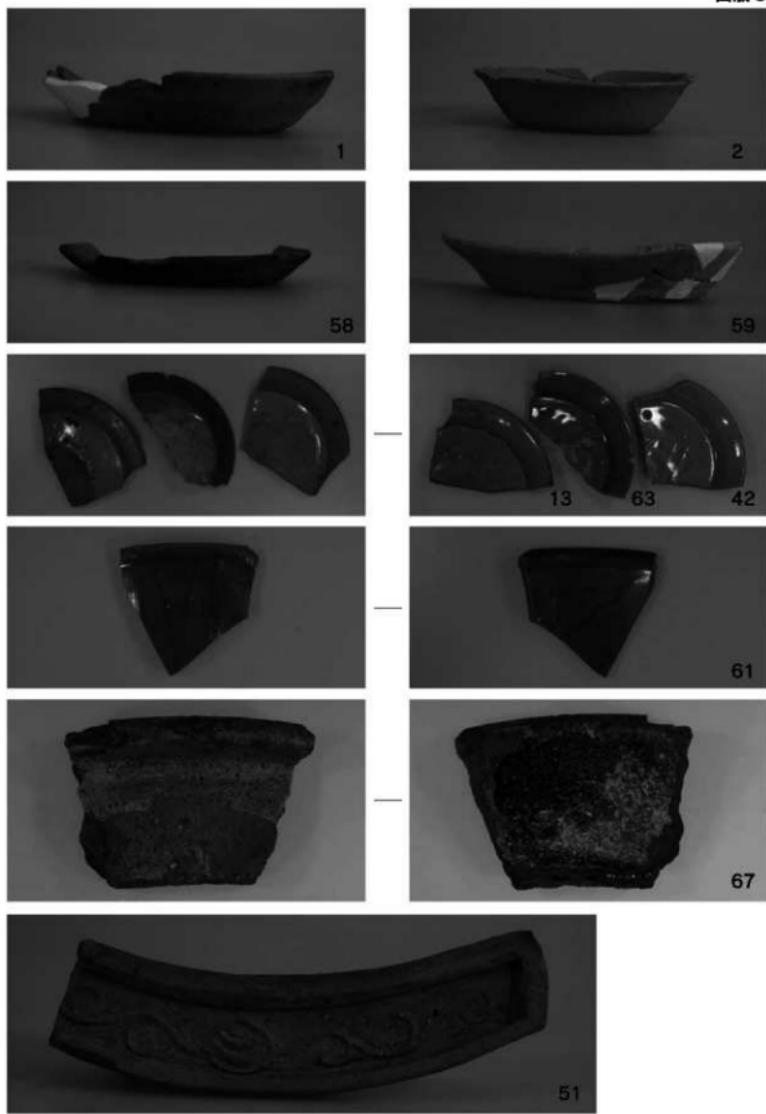


5. 立杭 b (北西から)



6. 下水道築造工事 (南から)

図版 9



出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はかた ひやくよんじゅうご						
書名	博多 145						
調査名	—博多遺跡群第192次調査報告—						
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第1198集						
編著者名	佐藤一郎						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1丁目8番地1号 TEL092-711-4667						
発行年月日	2013年(平成25年)3月22日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
はかたいせきぐん 博多遺跡群 (第192次調査)	ふくおかしはかたく はかたえきぐんついらうめ 福岡市博多区 博多駅前1丁目8	40130	33° 35' 38"	130° 25' 11"	110805 ～ 111027	221	下水道建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
博多遺跡群	都市	8～15世紀	柱穴、溝、井戸、土坑	須恵器・土師器、陶磁器			
要約	博多遺跡群第192次調査では掘立柱建物を構成する柱穴、溝、井戸、土坑他を検出した。承天寺境内を分断する現道に沿う下水道建設に伴う調査である。						

博多 145

—博多遺跡群第192次調査報告—

2013(平成25)年3月22日

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

発行 株式会社月成印刷

福岡市博多区大井2-13-27